

## 医研シンポジウム 2025

テーマ：

「地域医療構想と地域包括ケアシステムの到達点と課題」

開催趣旨：

中長期的な人口構造や地域の医療ニーズの質・量の変化を見据えながら、都道府県の病床の機能分化と連携を進めるため、2015年、厚労省より「地域医療構想」のガイドラインが発出され、それをもとに地域ごとの医療需要に合わせた病床数を定め、2025年をゴールとする取り組みが進められてきた。一方、それより早く各市町村では、地域の医療介護福祉そして生活支援の切れ目ない連携体制を構築し、高齢者など何らかの助けがあれば住み慣れた地域で生活を継続できる人たちを支えることを目的として、「地域包括ケアシステム」が2014年に法定化され、整備が進められてきた。途中、新型コロナウイルスのパンデミックがあるなど、予定外の障害もあり、両者とも当初の想定どおりに進められたとは言い難いところも存在する。とはいえ、各地の地域包括ケアシステム進展は目覚ましい。また昨年、今後の高齢者人口がピークを迎える2040年代初めとその先を見据えて、「新たな地域医療構想」が発表されている。こうした新しい体制を成功させるためには、過去の政策や実践活動に関する公正な評価が必要と考える。本シンポジウムでは、「地域医療構想」と「地域包括ケアシステム」のこれまでを振り返り、国の政策や自治体および関係者の取り組みの妥当性を含め、どこまで進化してきたのか、課題が緩和できたのか、何が新たな課題として出現したのかについて議論し、今後の地域包括ケアシステムと医療構想を考える確固たる基盤の提供を企図する。

シンポジウム座長  
公立大学法人埼玉県立大学理事長  
慶應義塾大学名誉教授  
田中 滋